

## 大鹿村中央構造線博物館たより 78号



月・火曜日休館

TEL&amp;FAX: (0265) 39-2205 E-mail: mtl-muse@osk.janis.or.jp

## — 講演会のお知らせ —

## ① 「南アルプスは高くなっているか」

## ② 「GPSでわかってきたこと」

- 日時：2015年11月21日（土）午後1時30分～3時30分
- 場所：大鹿村交流センター
- 講師：鷺谷 さぎや 威 たけし さん（名古屋大学教授・もと国土地理院）

**聴講無料・申込み不要！**

お問い合わせ：大鹿村中央構造線博物館 TEL. 0265-39-2205

**第6回 日本ジオパーク全国大会 霧島大会に参加**

10月27日（火）～28日（水）、鹿児島県霧島市で開催されたジオパークの全国大会に参加しました。全国大会は年に一度、今年で6回目となります。各地のジオパークから関係者が集まり、互いの活動報告や課題、将来像について議論する場が設けられます。また、一般向けの講演会やツアーも開催されます。会場周辺には開催地の霧島をはじめ、各ジオパークの特産品を扱った出店が立ち並び、お祭りのような雰囲気でした。

霧島ジオパークは自然の多様性とそれを育む火山活動をテーマとしています。霧島山は1つの山ではなく、高千穂峰や新燃岳、韓国岳など、宮崎県と鹿児島県の県境付近に広がる20以上の火山の総称で、霧島連山や霧島火山群とも呼ばれます。

27日（火）は開会セレモニーや講演会、テーマごとに分かれての勉強会などが行われました。



祓川神楽（霧島市民会館）

開会の催しとして、「祓川（はらいがわ）神楽」が披露されました。宮崎県高原町の霧島東神社の年中行事の1つで、400年以上前から行われているそうです。いくつか種類があり、今回は槍を用いた舞が披露されました。太鼓と笛の音に合わせた舞は、厳かな雰囲気の中にも迫力がありました。

開会セレモニーでは主催者や来賓のあいさつの他、新たにジオパークとなった地域の認定式が行われました。新潟県津南町と長野県栄村にまたがる「苗場山麓ジオパーク」、宮城県栗原市の「栗駒山麓ジオパーク」、山口県美祢市の「Mine 秋吉台ジオパーク」、鹿児島県三島村の「三島村・鬼界カルデラジオパーク」の4地域が加わり、日本のジオパークは39地域となりました（世界ジオパーク

8 地域、日本ジオパーク 31 地域)。

続く講演会では、2 名の方にお話しいただきました。最初にマレーシアの大学教授で世界ジオパークネットワーク副会長のイブラヒム・コモオさんに講演していただきました。コモオさんによるとジオパークの開発において、遺産・経済活動・コミュニティ (同じ目的を持つ仲間)、これら 3 つのバランスが重要だそうです。遺産には地質的なものだけでなく、生物多様性などの自然、そこに暮らす人々の文化も含まれ、保全はもちろん、持続可能な開発を行っていくことも求められます。そのためには地域住民の協力が不可欠であり、その重要性を改めて考えさせられました。

次に、鳥取環境大学 准教授の新名 阿津子さんに講演していただきました。新名さんは世界ジオパーク現地審査員も務めており、4 つの世界ジオパークを紹介していただきました。

日本の山陰海岸ジオパークは鳥取県・兵庫県・京都府にまたがる山陰海岸国立公園とその周辺からなり、2010 年に世界ジオパークに認定されました。鳥取砂丘が有名で、小学生のサマースクールや大学の授業での利用、大人向けのツアーなど、様々な試みがなされています。

ギリシャのレスボス島ジオパークはエーゲ海の島で、約 2 千万年前に埋没して化石となった森(石化林)が見どころです。2004 年に世界ジオパークとなりました。かつては島内で経済格差があり、地域を活性化するためにジオパークの取り組みが始まりました。また、島の気候を利用した 5 千年前の陶器の作り方を受け継ぐ、最後の 1 人となった男性がおられ、伝統を守るために失業した若者に作り方を教えるなど、文化の継承と雇用の創出を同時に行う取り組みが行われています。

マレーシアのランカウイジオパークはタイとの国境付近の島で、2006 年に東南アジア初の世界ジオパークに認定されました。東南アジア最古といわれる熱帯雨林や、約 5 億年前の石灰岩の地層などが見られます。ランカウイではジオパークガイドの教育が徹底されており、この地域でタクシードライバーになるにはガイド講習を受けなければならないそうです。一方、観光客による野生動物へのエサやりなど、他の地域と共通する問題もあり、ともに解決策を考えていく必要があります。

最後は今年世界ジオパークに認定された中国の織金洞ジオパークで、新名さんも審査に携わっています。石灰岩が侵食されてできた地形で、川が地下に潜り込んでいる場所や鍾乳洞など、興味深い地形が見られます。また、ミャオ族など少数民族が多い地域であり、彼らの歴史や文化も注目されています。ジオパークにおいては、そこに根付いた人々の暮らしも重要なのです。

テーマごとに分かれて行う勉強会を分科会といい、今回は「日本のジオパークの目指す方向」という分科会に参加しました。日本と海外の取り組みや、客観的に見た現状などについて話を聴きました。中でも第三者的な立場から見たジオパークの話では、地域住民の参加が十分でないことや専門的で理解を得にくい点もあるなど、改めてジオパークの抱える問題を痛感しました。ただ、全国の関係者が集まる場で意見を共有することができ、非常に意義のある分科会となりました。



分科会の様子 (国分総合福祉センター)

28 日 (水) は俳優・武道家の藤岡弘、さんと鹿児島大学 准教授、霧島ジオパーク推進連絡協議会顧問の井村隆介さんによるトークセッションを聴講しました。井村さんの解説で地質や歴史を学びながら、藤岡さんの霧島への熱い思いを感じることができました。

今大会のテーマは「Enjoy Geopark World」で、年齢・性別・人種などを越え、みんなでジオパークを楽しもう、という思いが込められており、私はこの考え方に非常に共感しました。誰もが楽しめるジオパークを目指すため、現状報告や課題の共有等、ジオパーク間の協力は不可欠です。また、互いに刺激し合える場でもあり、改めて全国大会の重要性を感じました。(榊原)